

台湾総統の「南方外交」 「実」得る目的果たす スハルト大統領と会談 -1994.02.13 朝日新聞

台湾総統の「南方外交」

94.2.13

「実」得る目的果たす 机

スハルト大統領と会談

東京 12日 藤原 秀人

【ヌサドワア（インドネシア・バリ島）12日】藤原秀人（旧正月の休みを利用して東南アジア歴訪中の台湾の李登輝総統は十一日、インドネシアのスハルト大統領と会談した。九日のラモス・フィリピン大統領に続く首脳会談で、来週にはタイのチュアン首相との会談も予想される。中国の厳しい目が訪問先に注がれる中、李総統が初めて中国と国交のある国を訪れ歴訪の重点であるインドネシア、フィリピン両首脳との会談を実現させたことで「メン

ツより実質」をめざした台湾の南方外交の当初の目的は果たされたといえる。台湾の同行筋によると、バリ島で行われた李・スハルト会談では、十一月にインドネシアで開かれるアジア太平洋経済協力会議（APEC）首脳会議への総統出席招請の言質は得られなかったものの、インドネシア側が中国の反発に配慮して今回の議題に取り上げないとの観測も流れていただけに、今後の外交拡大につながるると高く評価してい

た。インドネシア側は、李総統の案内役に大統領腹心のハビビ研究技術担当相をわざわざあてた。国内の開発に台湾の投資が欠かせず、航空機産業にとっても台湾は格好の輸出先になるためとみられる。ルソン島の旧米軍スビック基地を香港やシンガポールのような自由貿易センターにしようとしているフィリピンにとっても、台湾は基地転換への最大の投資元だ。このため、ラモス大統領が報道陣の目から隠れるように李総統と会い、スビック地区への二層の投資と農産物の受け入れ拡大の意向を取り付けた。

九七年の香港返還後の大陸への貿易、投資の中継基地にしようとしている。なかでも、低廉で豊富な労働力を持つインドネシア、フィリピンとベトナムが投資の戦略拠点になっている。インドネシアとフィリピンは、「一つの中国政策を覆すものではない」との態度を表明している。

中国外務省が比などに抗議

【北京支局12日】台湾の李登輝総統が、九日から休暇を利用してインドネシアを訪れ、十一日にバリ島でスハルト大統領と会談したり、これに先立って立ち寄ったフィリピンでラモス大統領と会談したことに對し、中国外務省は十二日、両国の北京駐在大使を呼び、正式に抗議した。